東アジアにおける安全保障問題に見る「文化的」要素 秋山 信将

1. アジアにおける価値の「多様性」の議論とグローバルな安全保障問題

- ・開発主義のイデオロギーと反グローバリゼーション
例：民主化問題、「デモクラティック・ピース」論への反感
- ・「脅威認識」のグローバル化の潮流とそれへの抵抗
例：大量破壊兵器の不拡散問題＝「誰の」脅威なのか？
- ・経済発展か、安全保障か？

2. 遅れてきた近・現代性？

- 国家主権という価値の「絶対性」と平和の「グローバリゼーション」
- ・普遍的な価値としての「平和」概念の広がり、と、「平和」達成の手段の選択における特殊性と個別性の強調
- ・「保護する責任」概念と国家主権の相克
- ・国家のガバナビリティと民族問題：ミンダナオの事例＝なぜ国連を通じた解決は嫌がられるのか？

3. トリップ・ワイヤーとしての歴史認識問題

- ・歴史が終わっていないアジア：第二次大戦の痕跡、分断国家
イデオロギー対立なのか、「権力闘争」なのか？
- ・経済発展は歴史問題の壁を乗り越えられるのか？あるいは、歴史問題は経済統合の足かせとなるのか？